

貧酸素水塊速報 (2009年)

〔発行〕 千葉県水産総合研究センター 千葉県農林水産技術会議
 〔協力〕 神奈川県水産技術センター 内湾底びき網研究会連合会
 千葉県環境研究センター 東京都環境局
 第三管区海上保安本部 千葉灯標モニタリングポスト
 国立環境研究所
 (今回の速報は" "の機関の観測データを使用して作成しました)

平成21年7月6日観測結果

貧酸素水塊は、内湾中央部を中心に分布しており、DOが0.5ml/L以下と無酸素に近い海域も広く見られました(図1)。縦断ラインでは、DOが0.5ml/L以下の水塊は、海底から最大で5mほどの厚みを持っていました(図2)。内湾中央部での貧酸素化の強まりにより、貧酸素水塊の規模は、例年同様大きく発達しています(図3)。無酸素に近い海域では、底層水に硫黄臭がありました。同水塊が持続すると、徐々に硫化物が海底付近に蓄積していくものと思われます。

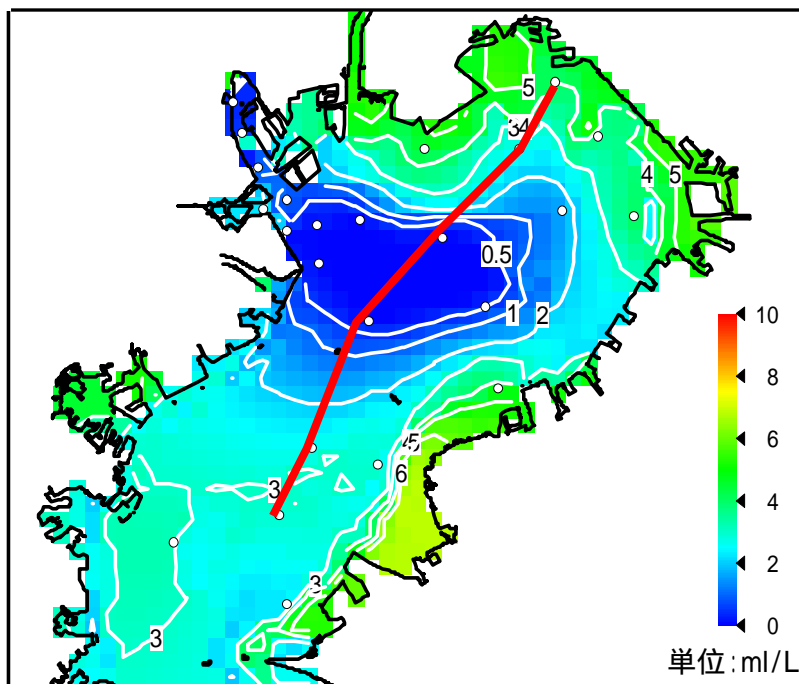


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)

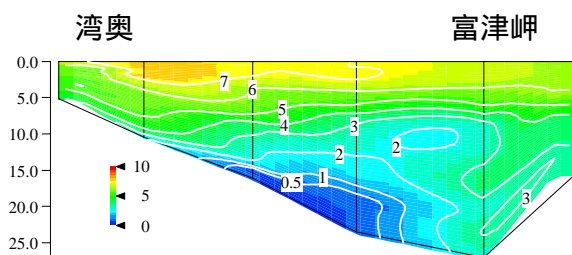


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布

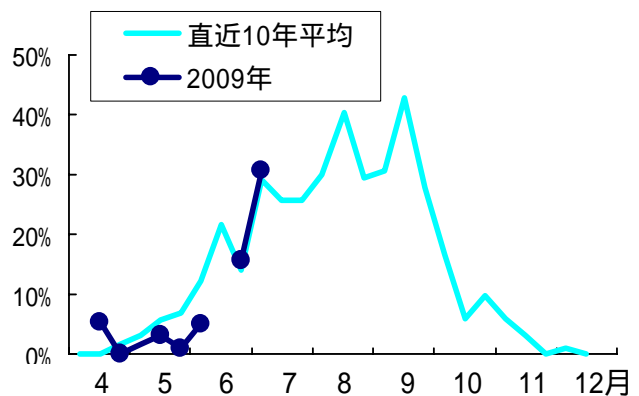


図3 貧酸素水塊の規模
(左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)